

小児がんと闘う「レモネードスタンド」



医大病院の小児腫瘍内科に「レモネードスタンド」の売り上げを贈った学生ら

福島医大生が寄付

小児がん患者の支援に役立ててもらおうと、福島医大の学園祭「第10回光翔祭」の実行委員会は6日、10月の学園祭で初めて開設した「レモネードスタンド」の売り上げ20万1398円を、医大病院小児腫瘍内科に寄付した。

医大生らは、10回の節目となった学園祭でレモネードスタンドを企画。実行委を中心に、約40人の有志が集まり、2日間で839杯を売り上げた。

「医学生として貢献できることはないか」と考え、出店を呼びかけたという委員の甲賀庸資さん（医学部4年）は「つらい治療をしている人たちに少しでも明るく元気になってもらいたい」と話した。

医大で行われた贈呈式では、松崎宙大実行委員長が小児腫瘍内科の佐野秀樹教授に目録を手渡した。

佐野教授によると、小児がんは15歳未満の子どもの病気による死因で最も多い。国内では年間約2500人、県内では年間25人前後が小児がんにかかっている。一方、小児がんは種類が多い割に患者数が少ないため、製薬会社が出資する治験に参加できる機会が少ないなど、大人のがんと比べてさまざまな面で対応がなされていない。

このため小児がんの研究を推進するには寄付が貴重で、がんを闘う米国の少女が始めたレモネードスタンドの取り組みは、県内でも広がっている。佐野教授は学生に現状を説明した上で「患者にとって力になり、われわれも勇気づけられる」と感謝した。

▲12月7日 福島民友新聞掲載

5W1Hを読み解こう

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。(330字程度)

いつ
(When)

どこで
(Where)

だれが
(Who)

なにを
(What)

どのように
どうやって
(How)

なぜ
どうして
(Why)

このレモネードスタンドのような取り組みがますます広まって、いい薬が開発されるといいですね。

